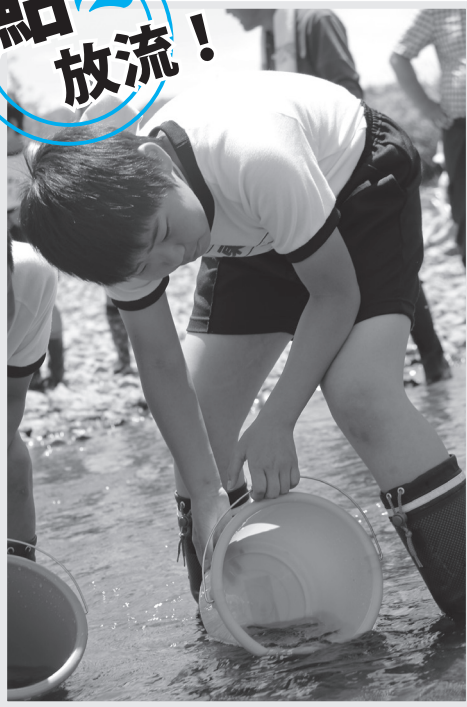


鮎放流!



6月11日、今年も西置賜漁業組合白鷹支部の主催による鮎の放流が最上川で行われました。今年体験したのは東根小学校の4年生15人。バケツから飛び出すほど活きの良い鮎に、興奮を抑えきれない様子の児童たちでしたが、鮎が弱らないように皆やさしく丁寧に放流していました。この日児童たちによって放流された鮎は約3000匹。しかし、その大半が鳥の被害にあってしまう事を教えてもらった児童たちからは、「鳥に食べられないで大きく育てほしい」と、鮎の成長を願う声が聞かれました。町の特産品の鮎に触れ、最上川の豊かさを学んだ児童たちでした。



「このいちごあまーい!」SHIRATAKA RED* どりいむ農園いちご狩り体験

今年もどりいむ農園のいちご園では、町内4保育園の園児を招待し、いちご狩り体験が行われました。ハウス内に実っている赤いいちごを見つけた園児たちはすかさず走りだし、実を一口。次の瞬間、「あまーい!」と満面の笑みがこぼれました。甘くておいしいいちごにご満悦の様子の園児たちでした。また、今年は高畠町の保育園からも園児がいちご狩りに訪れ、どりいむ農園で育った甘くておいしいいちごを堪能しました。



りんご摘果作業体験 SHIRATAKA RED* 真っ赤でおいしいりんごになあれ

6月15日、鮎貝小学校の3年生29名が、白鷹町土地改良区の主催によるりんごの摘果作業を体験しました。真っ赤でおいしいりんごに育てるために、摘果することを教えてもらった児童たちは、摘果する実を見極めながら楽しく作業しました。一人だと半日かかるところを、約1時間で終えた児童たちは、仲間と協力することの大切さも学びました。これから子どもたちは9月にりんご葉摘み体験をし、11月に真っ赤なりんごを収穫する予定です。



緑と花を育てるつどい 花を育て命を学ぶ

さくらの保育園では6月9日、白鷹町土地改良区主催による植栽活動「緑と花を育てるつどい」が行われ、園児たちが黄色とオレンジのマリーゴールドをプランターに丁寧に植えました。植物も生き物であることを学んだ園児たちは、自分たちが植えた花に毎日欠かさず水と愛情を注いでくれることでしょう。6月11日にはひがしね保育園でも同じく園児たちによる植栽が行われました。

*紅花生産日本一、日本の紅(あか)をつくる町の赤いもの。
名付けて「SHIRATAKA RED」